

〔学部部門〕

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(O)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
小学部	(1)	ア	児童の体調に関する情報を把握し、常に最新の緊急対応マニュアルに更新していく。また、学部内でヒヤリハットの情報共有をし、迅速に原因と改善策をまとめ、共通理解を図る時間を設定していく。	1-①②③④	B	○ヒヤリハットが起こった際は、学年で迅速に原因と改善策をまとめ、共通理解を図った。 ●迅速に共通理解する方法の検討。 ◇学部でヒヤリハットの保存場所を作り、各自が迅速にアクセスし、起った内容が把握できるようにする。 ○使用教室の安全確認を各自が行い、報告・改善へとつなげることができた。 ●定期的な教材室の整理、整頓。 ◇廃棄する教材教具、備品を振り分け、定期的に処分する。改修が必要な設備の改善を相談する。	
		イ	教室や廊下の整理・整頓、教材室の安全確認を定期的に行い、危険箇所の早期発見や改善をしていく。	1-②④	C		
	(2)	ア	個別面談や保護者会、連絡ノートを活用し、児童の日々の体調の変化や必要な支援について確認する。必要に応じてケース会議を速やかに設定し、個々の課題について対応していく。	1-① 2-②③	B	○各学年で、保護者・関係機関と連携を図りながら必要な話し合いを行うことができた。 ●話し合いの結果や対応を学部全体で共通理解し、検討・支援にあたる体制作り。 ◇児童の実態、家庭状況の変化を把握し、必要な会議、支援を迅速に行う。 ○児童一人一人の実態に合わせた教材教具、ICT機器を活用した授業を実践できた。 ●学年間、縦割り授業での指導目標、授業準備等の話し合いの充実。 ◇系統的な学習計画について検討していく。また、ICT機器を含めた教材・教具の情報共有を行っていく。	
		イ	個々の実態に応じた目標設定や手だてを検討し、学年間、学部間で系統的な指導を行う。実態に合わせた教材教具を検討・使用し、ICT機器を積極的に活用していく。	2-①②③	C		
	(3)	一人一人の良さが生かされた豊かな心を育む教育活動を推進する。	ア	経験を増やしたり、感性を引き出したりできるよう、体験的な指導方法を探求する。人やものとのつながりが感じられるよう、直接的に関わる活動とオンラインを活用した活動を取り入れていく。	2-①②③ 4-①④	B	○感染状況に応じて、直接的・間接的な活動を取り入れながら授業を行うことができた。 ●間接的な活動においても、人とのつながりやかかわりを感じ取れる内容の検討。 ◇感染状況に応じて、日程調整・活動内容を検討していく。ICT機器の効果的な活用方法を検討・研修していく。 ○相手校と打合せを行い、理解を深めながら交流活動を行うことができた。 ●感染状況に応じた実施計画の作成。互いを理解し合える活動内容の検討。 ◇相手校、交流団体と十分な打合せを実施し、目標や目的の共通理解を図る。
			イ	各種交流活動や合同学習を計画的に実施し、お互いを尊重し合う気持ちを育てる。(地域交流、学校間交流、居住地校交流、さわやかマナーアップ運動、花いっぱい活動、なかよしタイム(異学年交流)、他学年との合同学習など) ICT機器を活用しながら、有効な交流方法を検討する。	3-① ③④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
中学部	(1)	生徒の健康状態を把握し、健康で安全・安心な環境を整え、健康の維持、体力の向上に努める。	教室やグループ室などの学習環境の整理・整頓を心がけ、活動しやすい環境整備に努め、事故の未然防止に努める。また、生徒の実態や成長に応じた緊急対応マニュアルの見直しを行い、関係職員間で共通理解を図る。	1-①③	A	○生徒の健康状態や変化について、個別面談や連絡帳を通して保護者と共通理解を図り、日々の授業に反映させることで、健康の維持と体力の向上に努めることができた。 ○コロナウィルス感染症の状況に応じた、学習環境の工夫(学習形態など)や、生徒が使用する全ての場所の清掃や消毒など、安心して学習に取り組める環境を整えることができた。 ●次年度以降も、安全で安心して学習ができるように環境整備を進めていく。 ◇次年度以降も、保護者や主治医などと連携を図りながら、健康の維持と体力の向上を図っていく。
			生徒の実態の変化による学習内容の変更など、保護者や外部専門家、主治医、看護職員と連携を図りながら、個に応じた自立活動の計画を立て、健康の維持と体力の向上を図る。	1-① 2-③	B	
	(2)	生徒一人一人の実態や教育的ニーズを的確に把握し、個に応じた指導目標を設定し、授業の充実に努める。	個別面談や日々の連絡帳によるやり取り、生徒の学習の様子などから、保護者や生徒の教育的ニーズを把握し、個に応じた目標や手立てを盛り込んだ指導計画を作成することで、学習活動の充実に努める。	2-③ 3-②	B	○生徒の学校や家庭での様子について、保護者と情報を共有しながら自立に向けた課題の把握に努め、個に応じた指導計画を作成することができた。 ○一人一人の実態や学習内容に応じ、ICT機器の有効な活用に努め、生徒が主体的に活動できる授業の充実に努めることができた。 ◇自立活動の専門的な知識や技能を有する職員による研修や外部専門家の指導・助言を通して、授業の改善に努める。 ◇個に応じたICT機器の効果的な活用方法について、職員研修を通して学び、学習場面で生かせるように職員のスキルアップに努める。
			学年会やグループ会等で、個々の学習目標を明確にし、指導内容や支援方法について十分に話し合いを行って取り組んでいく。また、個々の実態や学習内容に応じたICTの適切な活用を進め、学習活動の充実に努めていく。	2-①②③	B	
	(3)	一人一人がお互いの良さを認め合い、思いやれる豊かな心の育成に努める。	将来を見据え、学校生活全般であいさつや返事などの社会生活の基本的ルールやマナーを学べる機会を多く設定することで、他者への意識を高められるようにする。	2-③ 3-③	B	○中学部で大切にしている「挨拶、返事、時間を守る」ことを常に意識し、各生徒に合った指導を行うことで、生徒も意識して取り組むことができるようになってきた。 ○遠足や校外学習では、コロナ感染症対策を十分に行いながら体験的な学習に取り組むことができた。 ○他の特別支援学校の生徒とオンラインで道徳の授業を行うことで、より多くの人と対話的な学習に取り組むことができた。 ●コロナ感染症の状況把握に努め、日程や内容の調整を行いながら遠足や修学旅行を実施できるように努める。 ◇ICT機器を活用しながら、他校との交流を継続して行い、生徒同士の対話的な学習の機会の確保に努めていく。
			感染症対策をしながら、遠足や修学旅行、交流活動等に取り組む、その中で対話的な学習を通して、友だちや周りにいる人との関係を深めていけるようにする。	3-①③	A	

[学部部門]

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(O)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
高等部	(1)	ア	教室、グループ室、廊下、教材室等の学習や生活環境の整理整頓・清掃を心がけるとともに、保管スペースの定期的な確認を行う。教材教具の点検・消毒を実施し、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	1-①②	B	<p>○毎日生徒下校後の清掃と消毒を行った。教材室やプレイルームの整理整頓も定期的に行い、できる限り衛生的な学習環境を整えることができた。</p> <p>○学年ごとに健康観察や連絡帳、送迎時の保護者からの情報をもとに複数の目で生徒の健康状態を確認し、その日の支援について共通理解を図ることができた。必要性に応じて養護教諭や看護職員、保護者の了解を得て医療機関にも相談し連携を図ることができた。</p> <p>○学校生活を通して、生徒一人一人の毎日の健康に留意しながら、生徒に合った学習活動を工夫することができた。</p> <p>◇環境整備と衛生に気を付けてきたが、次年度も引き続き環境整備と清掃消毒に努めたい。</p>	
		イ	一人一人の生徒の実態を十分に把握し、支援方法についての共通理解を図る。また、保護者や医療機関、養護教諭、看護職員と連携を図ることで、適宜生徒の健康状態を把握し、個や状況に応じた学習や活動を工夫し、健康や体力の維持・増進に努めていく。	1-①②③	B		
	(2)	ア	個別面談や相談の中で、生徒一人一人の教育的ニーズや課題を把握し、卒業後の自立と社会参加のため保護者と連携し、個別的教育支援計画・個別の指導計画・個別の移行支援計画を策定し支援に努める。また、進路体験実習の事前相談や移行支援相談での活用を図る。	2-③ 4-④	B	<p>○個別面談では生徒一人一人の学習、生活、進路についてのニーズを確認し、個別の指導計画等の作成と支援に努めた。ニーズにより、今年はⅢ期の進路体験実習を実施した。</p> <p>○ICT研修で学んだ内容を授業実践に生かすことができた。各グループでICTを生かし、生徒のニーズに沿った学習を行うことができた。</p> <p>●新設された教科や合わせた指導及び、従来の指導内容についての振り返りが十分にはなされていない。</p> <p>◇各教科や合わせた指導の学習目標や指導内容を整理と見直しを行い、教育課程の改善を進めていきたい。</p>	
		イ	個別的教育支援計画・個別の指導計画に基づき、学年会、学習グループ会等で課題を明確にして、指導内容の整理や支援について共通理解を図る。また、校内のエキスパートと連携し、適宜研修の機会を設け、ICTの適切な活用による学習活動の充実と指導力の向上に努める。	2-①②③	C		
	(3)	自己肯定観を育むとともに、他者の良さを認め、思いやる等の豊かな心の育成を図る。	ア	学習場面及び学校生活全体を通して、自己選択・自己決定の場を設定し、主体的に活動する時間を設定していく。また、図書室を利用する機会を適宜設定し、図書の貸し出しや読み聞かせなどを通して、本に親しむ態度の育成を図る。	3-③④	B	<p>○学校生活の活動全般を通して、生徒の自己選択・自己決定の場を設定し、生徒が中心の活動にすることに努めることができた。図書に親しむ学習内容を取り入れ、積極的に図書室の利用に努めることができた。</p> <p>○花いっぱい活動や学校間交流を対面で実施することができた。花植えやゲームを通して、楽しい時間を共有することができた。また、オンラインを活用し、他校との生徒の交流を図ることもできた。</p> <p>◇次年度も生徒が主体的に活動できる支援を心がけたい。また生徒の実態に応じたICTを適切に使い、地域の人々や同年代の他校の生徒との交流を図りたい。</p>
			イ	様々な交流活動や集団活動の場の経験を通して、集団生活のルールやマナー、自己と他者とのより良い関係作りを意識できるような内容・活動の充実を図る。また、状況に応じてICTの適切な活用を図る。	3-①②③ ④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
訪問教育	(1)	ア	表情や呼吸状態、酸素飽和度等を確認・観察し、授業時の体調を的確に把握する。必要に応じて毎日の健康観察の様子を記録しておき、長期的な視点で身体状態の把握を行う。	1-①② 2-①②③ 4-④	A	○モニターの数値の確認と保護者や事業所スタッフからの聞き取りによる健康観察を適切に行った。 ◇担当者が、訪問教育を受けている児童生徒の健康状況について情報を共有し、複数の教員での訪問や集団学習の際に健康や安全に配慮した指導ができるようにする必要がある。
		イ	その日の体調や覚醒状態に応じて、授業内容を組み立てる等、臨機応変に対応する。	1-①② 2-①② 4-④	A	○健康観察の記録に基づいて、普段と異なる状況が見られた場合に授業内容の変更、無理のない姿勢、時間の短縮など、速やかに対応ができた。
	(2)	ア	他校と情報交換をしたり、研修会に参加したりすることで、指導内容や教材教具、授業の組み立て方法等について研修し、個別の教育支援計画の実践・改善・充実に努める。また、授業を見合う機会をもち、訪問教育生の情報を共有して、授業改善に努める。	2-①② 3-③④	B	○ICTの活用についての研修を進めることができた。 ○児童生徒の身体状況に合わせた教材教具の活用について研修し、自作教材の制作ができた。 ○系統的な指導を進めるために、指導内容の検討を進めることができた。 ●担当者全員で指導内容・方法、研修、行事参加についての検討をする時間を確保することが困難であったため、文書での情報共有を図った。 ◇指導内容に応じて複数の教師が家庭や事業所を訪問し指導する機会を設けるなど指導形態の工夫い録画による相互参観を実施し、授業改善に努めるようにする。
		イ	保護者との連携を図りながら個々の教育的ニーズを把握し、指導を実践する。また、個々の実態に応じたアプリの活用など、必要に応じてICTの適切な活用による学習活動の充実と指導力の向上に努める。	2-①② 3-③	A	○対象児童生徒・保護者の教育的ニーズを丁寧に聞き取り、個別の指導計画に反映できた。 ○タブレットをはじめとするICTの活用を進めることができた。 ◇視線入力など、児童生徒の実態により対応したICTの活用を進める必要がある。
	(3)	ア	学部会等で訪問教育生の実態や近況報告・連絡・相談をしたり、通学生徒との交流の機会を計画したりして、理解を深める。	1-①② 2-①	A	○学部会で訪問教育生の状況を知らせる機会を設定してもらい、訪問教育生への理解を深めることができた。 ○通信「おとずれ」の発行、画像での日ごろの学習の様子を紹介などを継続できた。 ○通学生との作品交流を実施できた。 ◇児童生徒の所属学年とよりこまめに情報共有を図る必要がある。動画の活用も考慮する。
		イ	スクーリングの参加や交流については、事前に交流相手と密に連携を図りながら、お互いがかかわりをもてるような内容にするために十分な打ち合わせを行う。また、オンラインによる交流等、状況に応じてICTの適切な活用を図る。	1-①② 2-②③ 3-①	B	○学年や学習グループの協力を得て、事前に連絡を取り活動に参加できた。直接交流だけでなくオンラインによる交流、手紙やビデオレターの交換などの間接交流も実施し、児童生徒の状況に応じた交流を実施できた。 ◇当日だけでなく事前事後の間接交流の機会を大切にし、児童生徒が自宅での学習においても友だちを意識したり、交流の機会を期待したりできるようにする。

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
1年	(1)	ア	登校時に検温等の健康観察等で児童の体調を確認したり、保護者からの聞き取りや連絡帳等で連携を図ったりしながら、児童の体調や生活リズムを適切に把握し、健康で安全な学校生活が送れるようにする。	1-①	B	○検温や家庭との連絡帳等で平常時の健康状態や生活のリズムを把握することができた。また、教室環境を整えて、安全に過ごせるように整理整頓に心がけた。児童たちと一緒にバス発車までの時間に清掃活動に取り組んだ。 個の支援の充実のため、相談事業の活用を充実させた。 ●医療的ケアの児童の健康状態を保護者と連絡を密にして、共通理解をしていく。 ◇定期的に連絡をとり健康状態の把握をする。
		イ	保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体の動き、摂食等の支援方法の充実を図る。また、医療的ケアについては、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して、円滑に行えるよう進めていく。	1-①②	B	
		ウ	児童が健康・安全に過ごせるように、室温や湿度、安全面に配慮するなどの教室環境を整え、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	1-①②③	A	
	(2)	ア	個別の教育支援計画・指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた授業の充実を図る。教材・教具の工夫やICTを有効的に活用し教育活動に取り組む。個の状況に応じて、オンラインでの授業も設定する。	2-①②③	B	○年間指導計画をもとに学習活動に取り組み、さらに児童の実態に応じた学習活動を実施し、授業の充実を図ることができた。 ●必要に応じて、関係機関との連携を図る。 ◇連絡ノートを活用と外部専門家派遣事業の活用
		イ	学習の経過や結果を、学年会で情報交換し、支援方法等の共通理解を図る。学習の記録を行い、個々の目標や課題解決に向けた指導・支援を行う。	2-①②③	B	
	(3)	一人一人の良さを尊重し、豊かな情操を育む教育活動に努める。	ア	あいさつや呼名等、身近な人を意識できるように友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、新しい場所や人とかかわりに慣れるように異学年との交流場面を設ける。	3-③④	C
イ			人とかかわりの基礎を養い、集団生活においてのルールやマナーを身に付けることができるように支援する。図書室を利用し、いろいろな絵本に親しむ。	3-④⑤	B	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
2年	(1)	ア	家庭との連携を密に取りながら、児童の健康観察・健康管理に努め、教員間で情報を共有する。必要に応じて関係機関との連携を図り、より一人一人の実態に合わせた支援に努める。	1-①②③④	B	○登校時の健康観察や学校生活中の体調の変化など、複数の眼で観察・確認しながら把握に努めることができた。連絡帳や電話連絡、必要に応じて連絡ノートや支援会議などを通して保護者や関係機関との連携を取ることができた。継続した取り組みによって生活リズムも整い、児童の成長を感じることもできた。エアコンや加湿器、サーキュレーターなどを活用し、学習しやすい環境を整えるようにしてきた。(夏のトイレは暑く、児童も教員も汗たくさんだった) ●感染症対策として、教室での大人数(学年全体)による授業形態はなるべく取らないようにしてきたが、授業の内容によってはとても支援しづらかった。 ◇学年全体が揃って学習することができる教室(グループ室)の確保ができるとうい。	
		イ	児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整え、安全面に配慮し、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	1-①②④	B		
		ウ	授業の流れの一元化や活動の終始の明確化により、見通しがもちやすい日課の設定と、長期間の継続した取り組みを行う。	1-① 2-③	B		
	(2)	ア	複数の教員による日常の観察記録、授業評価をもとに、話し合いによる情報交換を行い、多面的な実態把握、授業の改善に努める。	2-①②③	C	○学年会やグループ会では、授業の反省や児童の様子などについて話し合いを深めることができた。日常的な会話の中でできた疑問点や改善点などを、次の支援に生かすような取り組みができた。個に応じた課題を継続して取り組むことで、成果を感じる児童が見られた。日常生活や授業の中で、タブレット端末の使用場面を設定し、活用してきた。児童が自ら触れて会を進行することができるようになってきた。 ●ネット環境が悪く、繋がりにくかったり途中で切れたりすることが多々あり、学習に支障を来すことがあった。 ◇事前確認の徹底。ネット環境を整える。	
		イ	障害特性に合わせ、個に応じた教材・教具・ICT機器を使った授業の工夫や学習内容及び学習形態の整備を行い、授業内容の充実を図る。	2-①②③	B		
	(3)	ア	将来の社会参加につながるよう、人や物にかかわる体験を取り入れ、かかわりを楽しみながら取り組むことができるような授業づくりを、積極的に行う。	3-①②	B	B	○授業や日常生活の中で、自分の気持ちを表現したりサインなどで伝えたりする支援を継続して行うことができた。 ◇感染症対策のため、たくさんの人とタッチなどであいさつをしたり触れ合ったりすることは難しいが、できる形で継続して取り組んでいく。

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
3年	(1)	健康で安全な学校生活を送ることができるように、保護者や関係機関との連携を図る。	登校時に連絡帳や保護者からの聞き取り、児童の様子等から体調を確認する。体調や生活上の変化については複数の教員で健康観察を行い、保護者との連携を図り、安心して学校生活を送れるようにする。	1-①②③	B	○体調に不安がある児童の健康観察を複数の教員で対応することができた。 ○外部専門家相談で児童の実態や実態に即した支援方法などを知り、共通理解を図ることができた。 ●教室の加湿については、換気とエアコンを使用することもあり、十分な湿度を保つことは難しかった。 ◇乾燥により体調に影響のある児童については、個々に吸入をするなどして対応していく。
			保護者や医療機関、関係機関と連携を図りながら、児童の身体の様子を把握し、健康の保持や身体動き、摂食等の支援方法の充実を図る。	1-①③	B	
			児童が安全、健康に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整え、安全面に配慮し、安心して学校生活を送ることができるように支援する。	1-①②③	C	
	(2)	児童一人一人の実態を適切に把握し、個々の実態や課題に応じた個別学習や集団学習の充実を図る。	個別の教育支援計画、指導計画に基づき、児童の実態やニーズに応じた指導・支援を実践する。個に応じたICT機器の活用や教材教具の工夫を行う。	1-① 2-①②③	B	○個に応じたICT機器(タップすると音声が出るアプリなど)の活用ができた。 ○授業記録を毎時間記入し、児童の様子を教員間で情報交換し、より良い支援を考えていくことができた。 ●児童がより成長できるための有効なICT活用について検討していけると良い。 ◇児童の様子を教員間で情報交換し、より良い支援方法を考えていく。
			学年会で児童の学習の経過や成果について情報交換を行い、支援方法の検討や共通理解を図り学年全体で支援できるようにする。	1-①②③	B	
	(3)	友達や教師等、集団活動の中で人のかかわりを大切に、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション力の基礎を培う。	朝の会やレクリエーション等で身近な人を意識できるように、友だちや教師とのかかわりの場面を多く設定する。また、なかよしタイムや他学年とのグループ学習等、学年以外の人と交流する学習場面も設定する。	1-① 3-①③	B	○休み時間には友達と一緒にダンスをしたり、ブランコに乗ったりして、周りの人とかわる場面が設定できた。 ○友達と挨拶を交わしたり、レクリエーションをしたりして一緒に過ごす中で、友達への意識が向上した。 ●他学年との交流は、感染状況で行うことが難しいことがあった。 ◇安全を第一に感染状況をみながら引き続き検討しながら実施するようにする。
			気持ちや要求を自ら表現したり、伝えたりできるよう、教材教具や支援の方法の工夫をする。また、集団生活におけるルールやマナーを身に付けることができるように支援する。	2-③ 3-①③	B	

小学部[学年, 教科・領域] ※評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
4年	(1)	ア	連絡帳や保護者からの聞き取り、児童の様子等から体調を確認する。体調や生活上の変化については複数の教員で健康観察を行い、保護者と連携を図り、安全安心な学校生活を送れるようにする。	1-①②③ ④	A	○児童の体調などの変化について、保健室やケア室とも連携を確認することができた。 ○複数の教員で、教室内の物品の安全確認や、室温の調整、適切な換気を行うことができた。 ●服薬について、保護者と確認をしていきたい。 ●加湿器を活用しても適切な湿度を保つのは難しかった。 ◇連絡帳に臨時薬欄を設け、服薬した日には記入してもらう。
		イ	安全面に配慮した教室環境を整え、定期的に教材教具の点検や教室の室温、湿度の調整を行い生活環境の整備に努める。	1-②③ 2-①	B	
	(2)	ア	保護者に学校の様子を伝えるときには、写真や動画を提示しながら分かりやすく説明をする。体調の変化や必要な支援については、保護者や関係機関との連携を密にし、適切な支援が行えるようにする。	1-① 2-①②③ 3-④	B	○外部専門家相談を積極的に活用し、様々な視点で支援について検討、確認することができた。保護者とも情報の共有を図り、支援に活かすことができた。 ○児童の体調や学習の様子で気になったことはすみやかに教員間で共通理解を図り、密に情報交換をすることができた。日常生活の取り組みを全員が把握し、誰とでも行える環境ができた。 ●医療情報について確認したいことがある。医療との連携を図りたい。 ◇主治医との連携を図りたい。
		イ	学年会で学習の経過や成果について情報交換を行い、共通理解を図り、支援方法の検討を行い学習活動の充実を図る。	1-① 2-①②③	A	
	(3)	ア	学級活動の中で身近な人とのやりとりを重ね、自信をもてるようにし、他学年の人との関わり(なかよしタイムや学部行事、委員会活動)の中で、自分の考えや気持ちを伝えることができるように支援する。	1-① 2-②③ 3-①	B	○オンラインでの活動にも慣れてきて、学校間交流や学習場面でのやりとりを楽しむことができた。三校合同では、チャット機能やJamboardでのやりとりを取り入れることができた。 ●学年の人数が少ないため、学年以外の友達とのコミュニケーションや集団でのルールなどを学習する機会を増やしたい。 ◇感染症対策を取りながらも、直接的な交流の機会を学部で検討したい。
		イ	集団活動におけるルールやマナーを身につけることができるよう支援する。	2-② 3-①④	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
5年	(1)	ア	健康で安全に過ごせるよう、登校時に保護者からの聞き取りや連絡帳で児童の体調を確認する。検温や酸素飽和度、心拍数の測定、表情や発作の様子等の観察、記録を行い、児童の体調を十分に把握する。	1-①③ 2-①	B	○保護者や関係機関(放デイ職員)と連携を図り、児童の健康状態を把握することができた。体調不良の際は、関係機関を通して通院につなげることができた。 ○食形態が合わなくなった児童について、保護者や児童が利用している施設のST、栄養教諭と連携し、実態に合った食形態に変更することができ、安全に食事をすることができた。 ○外部専門家相談を積極的に活用し、姿勢や緊張を緩めるための方法、情緒の安定など児童一人ひとりに応じた支援方法を知ることができ、実践することができた。今後も継続して活用していきたい。 ○換気や手指消毒、間隔を空けて座るなど感染症対策をしながら学校生活を送ることができた。陽性者はでたが学年内で感染が広がらなかった。今後も継続していきたい。 ●◇緊急時対応マニュアルについて、遠足などの行事のときだけでなく、日ごろから確認するようにして、緊急時に備えるようにする。 ●◇ケアルームで児童が体調不良になった際に教室にいる学年職員が状況を把握できないことがあった。体調不良がみられた際は教室にも連絡するようにし、連携が取れるようにする必要がある。	
		イ	外部専門家や連絡帳、連絡ノート等の活用を通して、保護者や関係機関と連携を図りながら、児童の身体や健康状態を把握する。また、医療的ケアや緊急時の対応等については、保護者を通して、医療機関と連携を図り、安全に配慮して円滑に行えるよう進めていく。	1-①②③ ④ 2-①② 4-③④	B		
		ウ	児童が健康・安全に過ごせるように室温や湿度等の教室環境を整えたり、備品の整理整頓を心がけ、安心して学校生活を送ることができるようにする。	1-① 2-①②	B		
	(2)	ア	複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材・教具の工夫、ICTの活用、学習環境の整備を行う。また、各教科・領域の系統性を踏まえた年間指導計画に基づき、児童の実態や保護者のニーズに応じた指導・支援を実践する。	1-① 2-②③	C		○児童の課題についてその都度話し合ったり、学年会やグループ会などで支援方法を伝え合ったりすることができた。 ○児童一人に1台タブレット端末を使えるようになり、個に応じて使用することができた。 ○教材・教具を工夫し、少ない支援で児童が主体的、体験的に学習することができた。 ●◇支援方法について教師間で共通理解して対応することが難しいことがあった。今後は具体的な支援方法を伝え合い共通理解できるようにする。
		イ	学年会やグループ会、合同授業の話し合いで児童の学習の経過や変化について情報交換を行い、支援方法等の共通理解を図る。また、個々の学習評価を行い、目標達成や課題解決に向けた支援指導を実践する。	1-①②③ ④ 2-①②③	C		
	(3)	ア	あいさつやふれあい遊び等、友だちや教師とかかわる場面を多く設定し、集団を意識したり、自分の気持ちを伝えたりすることができるように支援する。また、なかよしタイムでは、他学年の友だちや教師とかかわりもち、交流の充実を図る。	2-② 3-①②③ ④	C		○アプリ(ほいすぶっく)を活用し、朝の会や帰りの会の司会、挨拶などを行うことができた。 ○アプリ(目標継続カレンダー)を活用し、係活動を実施できたときにはスタンプを押すようにすると、児童が意欲的に取り組むことができた。 ○特別活動では学年レクリエーションを行い、友だちとかかわって遊ぶことができた。テーブルカーリングやジャンボゼンガなどのゲームをくりかえし行うとゲームの内容を理解し、順番やルールを守って遊ぶことができるようになった。 ●なかよしタイムは感染症対策のためオンラインで実施した。そのため他学年の友だちや教師と交流するのは難しかった。 ◇今後も感染症対策に留意しながら、児童同士がかかわって遊ぶ場面を多く設定していく必要がある。
		イ	スイッチ教材やタブレット端末などのICT機器を活用して、自己選択したり、主体的に活動したりすることができるようにする。また、表情や発声、視線、身体の動き等で意思表示をした際に教師が相手に伝えることで、スムーズにコミュニケーションをとることができるように支援する。	2-②③ 3-①②③	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
6年	(1)	保護者や関係機関との連携を図り、健康や安全に配慮し学校生活を送ることができるようにする。	ア 体調や生活上の変化について保護者との連携を密にし、児童の身体や健康の様子を把握する。医療的ケアのマニュアルに沿ったケアの実施と健康状態の把握に努める。個別の緊急対応マニュアルを教師間で確認し、緊急時に供えられるよう、学年で緊急対応訓練を実施する。	1-①③④ 2-①	B	○連絡帳や保護者からの聞き取り、電話連絡等で保護者と連絡を図りながら、児童体調や状態に配慮しながら支援を行うことができた。 ○緊急時マニュアルを確認し、学年間で緊急時の対応を確認することができた。 ○教室内の温湿度計を確認し、エアコンや加湿器を使用し、定期的に換気した。 ○◇緊急時マニュアルを確認し、学年間で緊急時の対応を確認することができた。定期的に学年で確認したい。 ●◇グループ室の教材置き場が時々整理整頓できないことがあったので、意識して整理整頓をしていきたい。
		イ 児童が健康で安全に過ごせるように温度・湿度調整をするとともに、換気を十分に行い教室環境を整える。また、備品の整理整頓を心がけ、事故防止に努める。	1-①② 2-①	C		
	(2)	児童一人一人の障害の特性や発達段階を把握し、個に応じた個別学習や系統的な指導に努める。	ア 複数の教員による情報収集、多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫を行い、児童の実態に応じた系統的な支援を行う。また、有効的にICTを活用していく。	1-① 2-①②③	B	○昨年度からの引継ぎや保護者や医療関係者等から助言を受け、実態を把握することができた。また、個に応じた教材・教具を準備し、学習に使用することができた。 ○◇大型テレビや電子黒板、タブレット、アプリの活用等、研修ができ活用を増やすことができた。実態や学習効果を考えながら、ICT教材とアナログ教材も活用していく。 ○朝の打ち合わせや、放課後、学年会等で、児童の連絡事項や支援方法等共通理解することができた。 ●学習が課程別に分かれているため、児童の細かい支援や引継ぎを充分には共通理解が難しい部分があった。ケース会等研修する機会があるとよい。
			イ 学習の経過や変化について、記録を基に学年会やグループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図り教員全員で支援できるようにする。また、学習の記録を行い、共通理解に活用する。	1-① 2-①②③	B	
	(3)	児童一人一人の良さを尊重し、豊かな情操を育むとともに、集団活動の中での人とかかわりを大切に、一人ひとりの実態に応じたコミュニケーション力の基礎を培う。	ア 児童一人一人を認め、自信や自尊心を育んだり、様々な体験学習を通して、自分の気持ちを伝えることができるよう、個に応じた丁寧なかかわり(言葉かけや写真カード、絵カード等)を行う。また、図書室を活用し、本を読んだり借りたりする習慣を身に付ける。	2-③ 3-③⑤	B	○自立活動や日常生活、道徳等の授業で自分の気持ちを伝えられるような場面を設定したり、適切な人とかかわり方の学習をしたりした。 ○読書週間や特別活動時に、図書室の本を借り、読む機会を設定することができた。 ○児童生徒会役員や放送委員会に入ること、異学部異学年の生徒とかかわる機会を設定することができた。また、居住地校交流に行くことができた。 ○オンラインでの交流で、ゲームをしたり、自己紹介をしたりして、交流し、様々な学年や人とかかわることができた。 ●◇直接交流の機会が減っているため、感染症の状況によるが、できる活動が増えるとよい。
			イ 学年での学習や学校間交流(間接)や、合同学習、異学年交流学習、児童生徒会・委員会活動等、さまざまな人とかかわる場面を設定する。また、ICT機器の活用等、有効的な方法を取り入れて人との交流を広げ、コミュニケーション力を培うことができるよう支援する。	3-①④⑤	C	

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
各教科の指導	(1)	健康で安全な学校生活を送るとともに、体力の向上と身辺自立を図る。	ア 体育や自立活動等を通して、健康の維持・増進に努める。	2-③	B	○保健体育では、仲間と共に体を動かし、自分の成長に挑戦する経験を行うことができた。 ○自立活動では、児童個々に応じた体づくりや体の動かし方について児童主体で行うことができた。 ●自立活動の時間が少なく、体づくりの時間は日々の隙間時間にも行う必要があった。 ●自分自身で健康状態を把握できる支援をしていけたらよい。
		イ 体育や自立活動等において、体力の向上や身辺自立のための動きの習得や、身体を動かす仕組みについての理解を深める場面を設ける。	1-① 2-③	B		
		児童一人一人の実態に即した授業内容・展開・環境を工夫したり、教材・教具を用意したりして、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	ア 児童の実態を的確に把握し、体験的な活動を取り入れた学習の機会を多く設ける。また、他者とのかわり方を学べるように、学習環境を工夫し、異グループや他校とともに学習する機会を設ける。	2-①②③ 3-①③	C	
	(2)	イ 基礎基本の定着を図るため、プリント、ドリル学習などで繰り返し学習できるようにする。また、学校図書やICT機器を利用した学習を多く行う。	2-②③ 3-⑤	B	○教科学習では、Goodnotesでのノート作成の仕方を指導することで、児童自身が自分の苦手をカバーし、得意な能力を使って学習できることを知ることができた。 ○居住地校交流や三校合同交流学習など、オンラインやアプリ上で他校の同年代の児童との関わりをもつことができた。 ○ICT使用に加え、必要に応じて図書を活用するなど、目的にあった方法で学習をすることができた。 ●ある分野においては生活経験が偏っていたり乏しかったりする児童もいることから、教科書や副読本に加え、本人にあった教材や体験的学習を適宜追加していく必要がある。 ●復習時間を多く設定することが難しく、復習にはプリントやアプリを活用していきたい。	
		ウ 授業記録を適宜付け、定期的に学習の習熟度を確認し、既習内容の復習を行う。	2-③	C		
		イ 児童の実態や学習到達度に合わせ、学習内容を選定したり学習時期の調整を行ったりするなど教科の系統性や領域を考慮しながら、体験的な活動を取り入れたり教材・教具を工夫したりする。	2-①②③	C		
	(1)	体験的な活動や様々な学習活動を通して、生活に必要な知識や技能を身につけ、自ら考え行動する力を育てる。	イ 自立活動や他の教科と関連付けたり、定期的にグループ会をもち教職員の共通理解を図ったりすることで、児童の実態に応じて計画的に学習活動を行う。	2-①②③	C	○感染状況を考慮しながらの学習計画ではあったが、各学年の実態に合った内容を、可能な限り体験的な活動を取り入れながら実施することができた。また、定期的なグループ会を通して、授業計画の見直しや教材・教具の工夫をすることで、児童たちの学習意欲を十分に引き出すことができた。 ●教育課程の変更(R6年度から)に向けて、各教科の学習内容の組み立てについて検討していかなければならない。 ◇検討するにあたって、各教科の学習内容をどのような学習形態(合わせた指導として扱うのか、教科として扱うのか等)についても学部全体で共通理解の上、段階を踏んで計画的に検討していく。
		ア 学校生活全般において、友だちや教師、保護者、来校者の方々とかいさつを交わす場を大切にするとともに、異学年との交流を定期的実施し、学習場面等に応じた具体的な対話方法を学習し、定着を図っていく。	2-①②③	C		
	(2)	あいさつや返事など基本的な生活習慣を確立するとともに、人とかかわる力(相手に伝える、相手の気持ちを考える)を培う。	イ サインや写真、ICT機器、絵カード、シンボルマーク等を活用することで、児童の実態に応じたあいさつなどの表出方法を工夫し、繰り返し活用できるようにする。	2-①②③	C	○合同生単(全学年)の授業(“人とかかわる力を高める”ことを目標にした授業)を通して、異学年との交流が深まり、自ら他学年へ出向いて会話を楽しむ様子が見られた。また、相手とコミュニケーションをとるときに、笑顔で対応する姿が非常に多くなった。 ●さらに「人とかかわる力」を高められるような授業の工夫をしていく必要がある。 ◇本校の、「進路支援の方針と取り組み」を参考に、小学部段階で身につけるべき力について確認しながら授業を組み立てていくと良いかもしれない。また、合同生単の授業担当を一人ずつローテーションしたが、複数人で担当した方が、内容を話し合いながらより良い授業を展開できるかもしれない。
		ア	2-①②③	C		

小学部〔学年、教科・領域〕 ※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
各教科の指導	(1)	ア	様々な体験的な活動を設定するとともに、児童の実態を的確に把握して教材・教具を用意し、提示の仕方を工夫したり、ICT機器を効果的に活用したりする。	2-②③ 3-①②⑤	B	<p>○実態に応じての個別の課題に取り組む時間を確保し学習を行うことで、積み重ねができて成果が見られた。</p> <p>○タブレットのアプリを使用し、コミュニケーションツールとして活用することができた。(自発的なコミュニケーション、朝の会・帰りの会の司会、授業の始めと終わりの挨拶等)</p> <p>○体験もしくは疑似体験できる活動を多く設定することができた。</p> <p>○挨拶を積極的に行ったり友だちとかかわる活動を多く設定したりすることができた。気持ちの表出等があった際には、共感の言葉かけも必ず行うことができた。</p> <p>●視線入力を通して、児童が充実感を感じる場面が増えたが、活用できる教師が限られているので、研修が必要である。</p> <p>●様々な場面でICT機器を活用していけるよう、継続して使用していくとともに、より効果的な使い方を探求していく必要がある。</p> <p>●コロナ不安のため、友だち同士のかかわりは、限定的になってしまった。</p> <p>●◇児童のできることを見つけて、継続して取り組んでいく必要がある。</p>
		イ	人とかかわる力を伸ばせるように、様々な人とかかわる機会を多く設定し、気持ちを表した際には、共感するような言葉かけをする。	2-③ 3-①③④	B	
	(2)	ア	こまめに健康観察を行い、教師間で情報を共有して、適切な対応を行う。	1-①③④	B	
		イ	連絡帳や外部専門家の活用を通して、家庭や医療機関との連携を図り、健康で安全な教育活動を行う。	1-①②③ ④ 2-①	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
1年	(1)	ア	健康状態や体調の変化について、連絡帳などを通して保護者との連絡を密にし、健康で安全な学校生活を送れるようにする。	1-①②③ 2-①②③	A	○日々の連絡帳や、送迎時の体調の確認、面談などを通して、体調や生活上の留意点について保護者と共通理解を図ることができた。 ○外部専門家相談を積極的に行い、PTやOTから指導内容や今後の支援方法について助言を頂き、生徒の指導に活かすことができた。 ●発作や嘔下について医療相談を必要とする生徒に対し、医療、保護者、学校の3者間で共通理解を図るための機会をもつことが難しかった。 ◇身体の成長に伴い、車いすや装具の状態などについて頻回に専門家や保護者と確認していく必要がある。
		イ	外部専門家や連絡ノートの活用を通して、保護者や関係機関との情報交換を行い、共通理解を図り、指導内容や支援方法の充実を図る。	1-①②③ 2-①②③ 4-③④	B	
	(2)	ア	保護者と生徒の実態について情報を共有するとともに、複数の教員による情報収集や多面的な実態把握に努め、個に応じた教材、教具の工夫、学習環境の整備を行う。	1-①②③ 2-①②③	A	○面談や連絡帳の他、必要に応じて電話連絡や直接話をするなどして、生徒の情報を教員間で共有することで、実態把握を行い、指導に活かすことができた。 ○学年会やグループ会では、個別の支援計画の他、日常生活の様子をもとに各生徒の課題を取り上げ、教員間で指導方法について検討し、共通理解の下、授業改善を図ることができた。 ○必要に応じて、絵カードやICT機器を使用し、生徒の主体的な活動を導く指導ができた。 ◇生徒の実態に応じて、さらにICT機器の効果的な活用が必要である。
		イ	学習の経過や生徒の変容について、記録を基に学年会や学習グループ会で話し合い、支援方法について共通理解を図ると共に、指導実践の工夫や改善に努める。また、実態に応じて、絵カードやタブレット端末などを有効に活用することで、学習活動の充実を図る。	1-①②③ 2-①②③	A	
	(3)	ア	場面に応じた挨拶や返事を意識し、定着できるよう支援する。	3-②③④	A	○登下校時の挨拶や呼名時の返事など、毎日意識して取り組むことができた。 ○特別活動では、外遊びやボウリングゲーム、風船バレーなどを集団でのゲームを通して、相手とのかかわりの場を設けることで、生徒同士の関係を深めることができた。 ○生徒の些細な身体全体の変化から、教師が気持ちを代弁することで、相手とのコミュのケーションを図ることができた。 ◇場面に応じた挨拶や返事は、常に意識できるよう継続して指導していく必要がある。
		イ	教育活動全般を通して生徒同士がかかわる場面を多く設定し、集団や相手を意識した活動の場を設ける。 また、生徒の表情や発声、視線、身体の動きなどの意思表示を教師が相手に伝えることで、スムーズにコミュニケーションをとることができるように支援する。	3-①②③ ④	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)			
2年	(1)	ア	教室やグループ室、廊下などの環境整備や安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい配置等に努めるとともに、学年会でヒヤリハット報告・検討を行い危険・事故防止に努める。	1-①②③ 2-①	A	○生徒が活動する場所の整理整頓や活動しやすいような配置を検討し、その都度、学年会等で変更箇所を見直した。 ●外部専門家相談の活用回数が昨年度よりも少なかった。 ◇グループでの学習が多いので、個々の健康状態について学部全体で共通理解できるような伝達方法を検討していく。		
		イ	外部専門家を活用し、医療機関との連携を図りながら、一人一人の障害の特性や実態を把握し、指導上配慮すべき点、健康の維持、情緒の安定、自立活動の課題などについて教職員間で共通理解を図る。	1-①②③ 4-④	C			
	(2)	ア	一人一人の障害の特性や実態、教育的ニーズを踏まえ、必要に応じて保護者や関係機関との連携を図りながら教育支援計画や指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に生かす。	1-①②③ 2-②③	A		○学年会やグループ会を通して、生徒の支援方法や目標等について共通理解をすることができた。 ○スイッチ教材やタブレット端末の活用など、生徒の実態に応じ、個々の目標に適したICT機器を活用することができた。 ◇各授業において教員間で、授業の内容について話し合う時間がもてるとよい。	
		イ	学年会やグループ会等で生徒の特性・支援内容等について教員が共通理解を図りながら、ICTの適切な活用による日々の授業実践や支援内容に工夫、改善を加えていく。	1-①②③ 2-②③ 3-②③	B			
	(3)	ア	教育活動全般を通して生徒同士のかかわりがもてる場面を適宜設定し、生徒同士が協力する楽しさや充実感を味わえるようにする。をもって活動に取り組める場面を設定する。	1-① 2-③ 3-①②③ ④	B			○帰りの会で個人目標を1人ずつ反省するようにしたこと、グループの違う生徒や教師と一緒に、称賛し合うことができた。 ○遠足では、つくばエキスポセンターに行き、様々な展示物を見たり触ったりするなど、生徒同士のかかわりを深めることができた。 ●保護者に進路の話をする場が個別面談のみになってしまった。 ◇学年会で進路指導に関する研修を行い、保護者に情報提供できるように進路指導の知識を深める必要がある。
		イ	進路や福祉関係の情報収集と保護者への情報提供に努めるとともに、人のかかわりを広げ、多様な経験ができる行事や活動への積極的な参加を促し、支援する。	1-①② 3-①②③ 4-①②④	C			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
3年	(1)	生徒の健康状態を把握し、健康で安全・安心な学校生活を送れるよう環境を整える。情緒の安定を図るとともに、健康の維持、体力の向上に努める。	生徒の健康状態や体調の変化について、日々の連絡帳や直接的な会話を通して保護者と連携し、養護教諭や看護職員と共通理解を図りながら健康の維持に努める。教室や学習室などの学習環境の整理・整頓、安全点検を定期的に行い、生徒が活動しやすい環境をつくる。	1-①②	A	○一人ひとりの健康状態や体調の変化について、毎朝クラス、学年で確認し、共有することができた。 ○連絡帳の記載事項や毎朝の検温、表情等から生徒の様子を確認し、学習時の姿勢等を配慮することができた。 ○毎日、生徒下校後には、教室、学習室の消毒、清掃を行うことができた。 ○身体の成長に伴い、緊急時対応マニュアルの再確認をし、保護者と現況を共有し、マニュアルの再考を行い、関係職員間で共通理解を図ることができた。 ●下校時の検温を行い、平常の体温であったが、帰宅後の約4時間後に新型コロナウイルス感染があったケースがあった。 ◇生徒の健康状況の把握について、チェック体制を継続していく。
		必要に応じて緊急時対応マニュアルの確認、見直しを行い、関係職員間で連携しながら、安全を確保する。	1-①③	B		
	(2)	生徒一人一人の実態や障害特性、教育的ニーズを的確に把握し、個々の目標を達成するための指導・支援内容を工夫するとともに、よりよい授業改善に努める。	個別面談や日々の連絡帳でのやり取りから、生徒や保護者の教育的ニーズを把握し、個々の実態に応じた自立と社会参加に向けて、保護者と連携して個別の教育支援計画・指導計画を作成し、個に応じた指導・支援に努める。	2-③ 3-②	B	○生徒や保護者からの教育的ニーズを聞き取り、必要に応じて医療相談等を行い、日々の指導・支援に活かすことができた。 ○定期的な学年会や毎朝の打ち合わせで、生徒についての情報を共有し、学習目標の確認や手立て等について確認し、実践することができた。 ●タブレット端末等の利用が拡大してきているが、個に応じたアプリの有効活用について、さらに研修が深まるとよい。 ◇ICT機器の活用について、実際に操作するなどの研修時間の確保が必要である。
			学年会やグループ会等で生徒の実態や支援内容等についての共通理解を図る。個々の学習目標を明確にし、一人ひとりが主体的に授業に取り組めるよう、ICT機器の適切な活用を図りながら学習活動の充実を目指す。	2-①②③	B	
	(3)	一人一人がお互いの良さを認め合い、相手を思いやる心を育むとともに、社会生活に必要な力の育成に努める。	教育活動全般を通して、あいさつや返事、社会生活の基本的なルールやマナーを意識できるように促す。また生徒同士のかかわりがもてる場面を増やし、互いの良さに気づき、思いやりをもって活動に取り組める場面を設定する。	2-③ 3-③	A	○毎朝、帰りの挨拶を教師と一緒に学年内の生徒同士で朗らかに行うことができた。マナーアップ週間でのあいさつ運動のアナウンスにも意欲的に参加できた生徒がいる。 ○修学旅行に向けて、茨城県についての事前学習を行い、「茨城空港」見学を行うことができた。 ○進路や福祉サービスについて、保護者からのニーズに応じて必要な情報を提供することができた。 ●新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえての校外での活動計画が難しかった。 ◇生徒の実態を踏まえての安全・安心な学習活動の計画立案を検討していく。
			修学旅行、交流及び共同学習など、多様な経験ができる学習内容・活動の充実を図る。進路や福祉関係の情報を収集し、教員間で共有し、保護者への情報提供に努める。	3-①③ 4-④	A	

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
各教科の指導	(1)	各教科の学習において、基礎・基本的な内容の確実な定着を図る。	ア	一人一人の生徒の実態や特性に応じて、各教科の担当教員が教材の工夫や学習環境の整備を行うとともに、生徒の実態や支援方法について教科担当者間で連携し、共通理解を図る。	1-①②③ 2-①②③ 3-②③⑤	B	○各教科では必要に応じてICT機器を使用しながら授業を行ったり、生徒の体調に応じて、ベッドに移乗して姿勢を整えたり、適宜リクライニングを倒して休憩するなど学習環境の整備を行うことができた。 ●生徒の実態に関しては定期的にグループ会を開いて共有することができたが、ベッド上での座り方や支援方法などはもう少し共通理解を図る必要があった。 ○各教科の学習内容の定着度に応じて課題を出すなどして、学習内容の定着を図ることができた。 ○自立活動の時間では、「どうしたら学習しやすくなるか」を生徒自身が考え、自分から学習に取り組みやすい環境を整えることの意識を高めることができた。各教科の進捗状況をこまめに確認しながら授業時数を確保することに努めた。
			イ	各教科の学習内容や定着度に応じて定期的に小テストなどを実施したり、達成段階に応じた課題を出したりして、反復学習の機会を設定し、学習内容の定着を図る。	2-①②③	B	
			ウ	それぞれの障害の特性に応じた支援を行うための自立活動の時間を設定しつつ、十分に学習内容が定着できるよう、各教科の授業時数の確保に努める。	1-① 2-①②③	A	
	(2)	個々の実態に応じた自立と社会参加に向けて、適切な支援と進路指導を行う。	ア	授業や日常生活の中で、あいさつや返事などの社会生活の基本的なマナーやルールを意識させるとともに、周囲の人の力が必要な場合には自分から依頼するように促し、主体的に生活する態度を育む。	1-① 2-③ 3-①④	A	○あいさつや返事など社会生活の基本的なマナーについては適宜指導、支援を行い、生徒の意識を高めることができた。自分の体調に合わせて、学習しやすい姿勢やストレッチなどを周囲の教師に依頼して行うことができた。 ○道徳に関しては、4校合同で実施することで、生徒同士の活発な意見交換やコミュニケーションを行うことができ、道徳的価値観を高めることができた。普段の授業においても教師とのやり取りの中で自分の考えを発表することができた。 ●今後も話し合いや意見交換の場をどのように設定するか検討していく必要がある。 ○「進路を考える週間」では自分で目標を考えたり学習計画をたて、進捗状況に応じて修正しながら取り組むことができた。将来の自立と社会参加に向けて、主体的に情報収集を行うことができた。 ◇生徒の実態や本人・保護者のニーズに応じて今後も柔軟に内容を検討していく必要がある。
			イ	道徳の時間に、自己を振り返ったり見つめたりする時間を設定することで自己理解を深めるとともに、考えや価値観を深められるようにする。	2-③ 3-①②③ ④⑤	B	
			ウ	「進路を考える週間」で生徒の実態に応じた職業トレーニング体験を取り入れ、働くことについて考えられるようにする。また、高等部の実習報告会を参観し、高等部の進路学習のイメージをもてるようにする。	1-① 2-③ 4-④	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)		
各教科の指導	II	(1)	日常生活の中で必要となる課題に対して、基礎的・基本的な学習に系統的に取り組むことで、日常生活に生かせる知識の習得や技能の定着を図る。	身振り手振りや指文字、手話、ICT機器の活用など個々に必要とされる課題に継続的に取り組むことによって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。	2-①②③ 3-①	B	○学習内容に関しては、各教科の指導者同士、またはグループ全体で検討する機会を設けていたので、個人の実態に合わせた目標を設定して学習を進めることができた。 ◇次年度に関しては、個人の実態が変わるので、グループ全体においても必要とされる課題を再度検討していく必要がある。
			教科ごとに指導者をほぼ固定し、各教科の指導者同士で連携を図ったり、学習の記録を生かしたりして、課題内容や支援方法を精選し、個人の実態に合わせた知識・技能の定着を図る。	1-①②	B		
		(2)	自分の意見を発表したり、人の意見を聞いたりする経験を通して、主体的なコミュニケーション能力を身につける。	生徒間で意見を交換したり自分の考えを発表したりする機会を多く設定し、コミュニケーション能力を高めるようにする。	1-①② 4-①	B	
			グループ会等を利用して、教員間で生徒の実態について共通理解をし、健康管理や目標の共有を図り、個々に応じた手立てを検討する。	1-①② 3-①	B		
	III	(1)	生活のリズムを整えながら、健康の維持・増進を図る。	検温、酸素飽和度、脈拍、表情などの健康観察を十分に行い、体調の管理・維持に努める。また、家庭や養護教諭、看護職員と情報を共有し、さらに学部会やグループ会等で連携を図りながら適切に対応する。	1-① 2-①	A	○検温や酸素飽和度の測定などの徹底、その日の体調についてグループ教員で情報共有することができた。 ○外部専門家などに教授してもらった内容を共有し、生徒の指導支援に活かすことができた。 ○家庭や看護職員と情報共有することで、その日の体調を十分に把握しながら指導にあたることができた。 ●生徒の登校時刻がバラバラなので、体調に関する情報を共有することが難しかったグループがあった。 ◇生徒に関する情報のよりよい共有方法について検討していく。
			外部専門家相談及び連絡ノートや医療相談などを活用して医療機関との連携を図り、自立活動や日常生活全般において個々の実態に合わせた身体機能の維持・増進に努める。	1-① 2-① 4-④	B		
(2)		人とかかわりや、様々な学習活動を通して、感情や意思の表出を促す。	個々の生徒の実態や学習に取り組みやすい環境、教材・教具の提示方法、大型画面やタブレット端末などICTの活用について研修し、スキルアップを図ることで、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。	1-① 2-① 2-②	A		
		五感を刺激する活動や運動、音楽を多く取り入れ興味・関心の幅を広げるとともに、支援の方法や教材・教具の工夫をすることで、快・不快等の自発的な表出を促すようにする。	1-① 2-③	B			
		他者とかかわる場面の設定や学習内容、学習形態を工夫する。	1-① 3-④	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
1年	(1)	健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、体力と身体機能の維持・向上を図るとともに、自己肯定感を育み他者を思いやる豊かな心の育成に努める。	ア 教室, グループ室, 廊下などの生活環境の整理整頓や清掃, 消毒を毎日行い, 安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努める。	1-①②	B	○健康状態で判断に迷うこともあったが, その場合は保護者に連絡・相談し対応を決定することができた。 ○自分で使用するペンの色を選ぶなど, 学習場面だけにこだわらず日々の生活の中でも選択, 決定していく過程をつくることができた。このような積み重ねもあってか, 年度のはじめと比べ自分の気持ちや意見を表現することを躊躇することが減ったように感じる。
		イ 保護者や関係諸機関との連携のもと, 学校生活における健康・安全面の問題を明確にし, 緊急時に備えたマニュアル作りと対応力の向上に努める。	1-①③④	B		
		ウ 他者とかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え, 自己選択, 自己決定できるような場面を設定する。	3-①② ③④	B		
	(2)	生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確にふまえ, 学習内容, 指導方法の工夫・改善を図る。	ア 生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し, 個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図る。	2-①③	B	○それぞれの学習グループで個々の目標に合わせた学習活動をおこなうことができた。また, 必要に応じて補助具を準備し, 学習活動を支援することができた。 ○ほとんどの生徒がパソコンやタブレット端末, スイッチ教材などを活用して学習活動をおこなうことができた。このことがパソコンの知識や技術の向上や学習意欲の高まりにつながったと思う。
			イ 学習活動, 自立活動の指導においては, 実態に応じてICTの適切な活用を図りながら指導内容と方法を工夫し, 授業の改善に努める。また, 生活上の課題についても目標達成カードを用いて教員間で共通理解し, 手立ての工夫・充実を図る。	2-①②	B	
	(3)	生徒一人一人の進路想定をふまえ, 卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	ア 生徒, 保護者のニーズを確認しながら, 進路指導上の課題を明らかにし, その課題を進路体験実習, 作業学習, その他の学習の中で解決できるよう取り組み方と手立てを考えていく。	2-③ 4-④	C	○進路体験実習では, 個々の目標に向き合って取り組むことができた。Ⅱ期の実習ではⅠ期の経験をいかし, より自主的に実習に取り組むことができていた。 ●現段階では進路に対しての捉えが保護者によって異なる。保護者の意図を組み入れつつ今後必要な手順や情報を伝えていくのはなかなか難しかった。 ◇保護者が来校することが少ないので, どんなことを話したらいいのかを整理しておくようにする。
イ 生徒の実態に応じて, 就労や福祉施設等の情報提供を行うことにより, 実態に合った進路想定を導けるように努める。			2-③ 4-④	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
2年	(1)	健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、生徒の体力と身体機能の維持・向上に努める。	ア 保護者や養護教諭、看護職員との連携のもと、学校生活における健康・安全面の問題を明確にし、体力と身体機能の維持・向上に努める。また、生徒の健康状態を把握するため、必要に応じてバイタルチェックをして健康管理の意識を高める。	1-①	B	○毎日清掃、消毒を行い、衛生的な生活環境に努めることができた。 ○日々の健康観察を行ったことで、小さな変化に気付き早期に対応することができた。 ●保護者や看護職員、養護教諭など関係者と情報交換を密にして連携を図りながら、生徒の健康維持に努めることができた。今後も継続して行っていく必要がある。
		イ 生徒の視点に配慮し、教室、グループ室、廊下などの整理整頓及び教材教具の点検・消毒を定期的に行い、安全で健康な学校生活を送るための環境整備に努めるとともに生徒への清潔意識の向上に努める。	1-①	B		
	(2)	生徒一人一人の学習面・生活面の課題を的確に把握し、学習内容、指導方法の工夫・改善を図る。	ア 生徒・保護者のニーズを確認しながら個別の教育支援計画を作成し、個に応じた学習指導ならびに手立ての工夫・充実を図ると共に、進路体験実習において情報の共有に努める。	2-③ 4-④	B	○朝の会や自立活動(個別)などでタブレット端末を活用することができた。 ○個に応じた学習指導や手立てを設定した。 ○スイッチ教材やタブレット端末等を活用し、個々の実態に応じて改良を重ねていったことで、生徒自身が選択したり自己決定したりして、「やりたい」気持ちを持ち、活動に見通しをもって取り組むことができた。 ●自己選択・自己決定の場面を日常生活の様々な場面で設定することで、自分の気持ちを積極的に表出したり、友だちの気持ちを意識したりする様子が多くなってきた。今後も継続して行っていく必要がある。
			イ 一人一人が学習活動に主体的に参加できるように、ICT等の活用を通して、実態に応じた学習内容や指導方法を工夫し、授業の改善に努める。	2-②③	C	
			ウ 生徒同士でかかわることができる活動や各自がもてる力を発揮できるような学習内容を考え、自己選択、自己決定できるような場面を設定する。	1-① 3-①②③	B	
	(3)	生徒一人一人の進路想定をふまえ、卒業後の社会参加に必要な態度や技能の育成に努める。	ア 生徒、保護者のニーズを確認しながら、進路指導上の課題を明らかにし、その課題を進路体験実習や学校生活全般を通して、達成できるよう具体的な取り組み方と手立てを考えていく。	2-③ 4-④	B	○進路体験実習 I 期の課題を達成するための取り組みを考え、学校生活全般で行うことができた。 ○実習での課題を学習に生かし、繰り返し取り組むことができた。 ○進路体験実習を通して、実態を把握したり保護者との連携を深めたりすることができた。 ●卒業後の就労だけでなく、生活面も踏まえた情報提供や連携を深めていきたい。 ●実習や施設利用を通じて、卒業後の生活を想定した課題を再度明らかにし、今後の学習に活かしていきたい。
イ 生徒の実態に応じた福祉サービスの活用を促したり、福祉施設等の情報提供を行ったりすることで、保護者や関係機関と連携を図り、実態に合った進路想定に導けるように努める。			2-③ 4-④	C		

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
3年	(1)	健康・安全に配慮した生活環境の整備を行い、生徒の健康や体力の維持・増進に努める。	ア 一人一人の実態を的確に把握するとともに、生徒・保護者のニーズや意見を反映させながら、個別の教育支援計画を作成し、個に応じた指導、手立ての充実を図る。	1-①	B	○個別面談や連絡帳を通して、生徒・保護者のニーズを把握しながら、個に応じた指導にあたる事ができた。また、今後もクラス・学年と共通理解を図りながら指導にあたっていくことが望ましい。 ○教師がもつ小さな気づきについて、外部専門家に相談することで、指導の手立ての充実と実態に応じた指導内容へと改善することができた。 ○毎日、放課後に教室や教材の清掃・消毒を実施した。 ●授業内容によっては、教材数が多く保管場所の確保ができず、教室や高等部プレイルームが煩雑になることがあった。 ◇教室内の戸棚の整理整頓を定期的に行い、教材の保管場所を確保する。
		イ 外部専門家相談を活用し、教員間で共通理解するとともに、より実態に即した指導内容と方法を工夫し、授業の改善に努める。	1-①②③	B		
		ウ 教室や教材等の整理整頓、清掃、消毒を行い、安全に学校生活を送れるように努める。	1-①②	B		
	(2)	将来の生活を踏まえ、自立や社会参加を図るために指導内容を検討し、進路指導に関する支援の充実を図る。	ア 生徒、保護者のニーズを確認しながら個別の指導計画を作成し、自立や社会参加に向けて身に付けたい力を明確にする。また、将来の実生活をイメージした進路選択ができるように日頃から福祉施設等と情報の共有を図り、進路支援に活かしていく。	2-③ 4-④	B	○福祉施設等との情報共有は、実習前後の時間を中心に、進路指導主事を窓口にして施設の情報提供を行うことができた。 ○進路体験実習を通して、働くことを経験することができた。また、校内実習班によっては保護者と協力して取り組むことができた。
			イ 生徒一人一人の目標達成に向け、指導内容や支援について探求し、教員間の共通理解のもとでキャリア教育の充実を図る。	2-①②③	C	
	(3)	自己肯定感を育み、他者とかかわりを楽しむ豊かな心の育成を図る。	ア 学校生活において、生徒の実態に応じた支援を行うことで成功体験を積み重ね、主体的に生きようとする意欲を持たせ、自己選択・自己決定できるような場面を設定する。	3-①②③ ④⑤	C	○感染症予防対策を講じながら、学年全体で行える活動を一斉に行ったり、集団を工夫したりして実施することができた。また、オンラインでの活動が充実し、生徒もタブレット端末を使用した活動に積極的に取り組むことができた。 ●オンライン学習時の個別に応じた手立ての充実を図る。 ◇タブレット端末の活用の仕方や実態にあったアプリの使用方法等、研修を行い実践していく。
イ 学級活動や交流、学校行事などを通して他者とかかわりをもてる機会を設定し、集団の一員として各自がもてる力を発揮できるよう促す。			3-①②③ ④	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
各教科の指導	I	(1)	健康・安全に留意し、一人一人の主体的な活動を大切にしながら、充実した学校生活が送れるようにする。	ア 充実した学校生活を送れるよう自分の健康管理に留意するとともに、学校行事や学年活動・部活動において活躍できる場を設定し、様々な活動への主体的な取り組みを促す。	1-①② 3-①②③ ④	B	○充実した学校生活を送れるよう健康観察に留意することができた。学校行事や学年活動・部活動において活躍できる場を設定し、様々な活動への主体的な取り組みを促すことができた。
		(2)	一人一人の進路適性を的確に把握し、対話を重視しながら個別の進路課題に応じた進路指導に努める。	ア 生徒や保護者の進路希望を尊重し、進路指導部や関係機関との連携を図りながら、進路に関する適切な情報提供を行う。また、生徒一人一人の課題に応じた体験的・実践的な学習を行うことで、生徒自身が課題を意識しながら主体的に進路選択できるように対話を重視しながら支援する。	2-①②③	B	○生徒や保護者と対話を重ねながら希望をできるだけ尊重し、関係機関と連携を図りながら進路に関する適切な情報提供を行うことができた。また、生徒一人一人の課題に応じた体験的・実践的な学習を行い、生徒自身が課題を意識しながら主体的に進路選択をできるよう対話を重視しながら支援することができた。 ●各教科担当職員と連携を図り、学習環境及び基礎学力の充実につとめることはできたが、内容の理解については、生徒の得意・不得意もあり必ずしも十分とはいえない単元もあった。
			イ 教科担当職員の連携を図り、個々の実態に応じた学習環境の充実に努める。また、ICTを適切に活用し、基礎学力の向上や深い学びが実現できるように努める。	2-①②③	B		
	II	(1)	生徒一人一人が自立生活や社会参加するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う。	ア 卒業後の自立と社会参加に向け、学習内容を精選し、実態に合った改善をしながら、実践的・体験的な学習活動を充実させる。	2-③	B	○生徒の困り感を作り出したロールプレイを通して繰り返し練習したことで、休み時間や他の学習場面でも、自分の気持ちや場に応じた言葉遣いで伝えられるようになってきた。また、個別の課題を抽出し、国語や作業学習の中で取り上げ、課題の改善・克服のための指導・支援を横断的に取り組むことができた。 ●教師対生徒との対話を活発に行うことができた一方で、生徒同士の対話では、生徒が主体的に自分の意見を交換し合えるような実態にあった手立てを十分に講じることができず、内容を深めることが難しかった。 ◇自立活動等を通して、個の気持ちを出せる力やその手段を獲得したり、日常生活の中での実践と反省を繰り返すことで、自然と対話ができているような手立てを講じたりしていく必要がある。
				イ 他のグループと連携を図り、話し合いの場や自己選択・自己決定する場を設け、自分の気持ちを出せる機会を多く設定する。	2-③	C	
				ウ パソコンやタブレット端末などのICT機器を授業で活用し、情報収集・整理・分析・表現・発信を適切に行うことができる力を高められるようにする。場に応じた言葉遣いを身につけるためにロールプレイを多く設定する。また、簡単なサインをや身振り手振りを使ったり、ICT機器を活用したりする等、実態に応じた支援を工夫する。	2-②③	B	
	(2)	生徒のニーズ、卒業後の進路等を把握し、保護者や学部、学年及び関係機関と連携し、情報の共有を図る。	ア 進路指導主事との連携、外部講師、地域の人材などを積極的に活用し、卒業後の進路に応じた学習内容を授業へ取り入れる機会を設ける。	2-③ 3-① 4-④	B	○学習担当者間での情報交換会を定期的実施したことで、生徒の様子やその時の課題等を共有でき、学習や日常生活場面での指導・支援に生かすことができた。 ●進路体験実習では、学習担当者や進路指導主事、保護者や実習先等の情報の共有が一部甘くなってしまい、情報が錯綜してしまうことがあった。 ◇定期的に関連職員と情報を共有したり、整理したりしていく。	
			イ グループ会等で、生徒の情報や各授業の様子などを共有することで、生徒の課題を見つけ、次の授業に活かすことができるようにする。また、授業を担当しているグループ外の教員との情報交換を定期的に行うことで、実態を多面的に把握するとともに、一貫した指導を行えるよう努める。	1-① 2-③	B		

評価項目		具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)	
各教科の指導	Ⅲ	(1)	健康の維持・増進に努め、生活のリズムや生活習慣の形成を図り、安全に配慮した環境整備を行う。	ア 毎日の健康観察や健康維持のための水分補給、検温を行い、個々に応じて血中酸素飽和濃度や脈拍の測定等を行う。	1-①	B	○登校時の連絡帳確認や保護者とのやりとりを通して、また登校時の検温やSPO2の測定、様子観察等、様々な視点から健康状態を把握し、その日の体調に応じた個別学習や集団活動を行うことができた。 ●学年によって生活単元や感覚の曜日が異なるため、教材を共有して使用できるよう高等部プレイルームを教材置き場としたが、授業後も整理整頓することが望ましい。 ◇整理整頓の意識を高め、職員全体で取り組む。
			イ 生徒が生活リズムを意識できるように、朝の会やトイレ・水分補給等、毎日の生活を規則正しく行う。	1-①	B		
			ウ 使用した教材の点検や消毒を行うとともに、定期的な教室やグループ室、教材室の整理整頓に努める。	1-① 1-②	B		
	(2)	豊かな心の育成を目指し、人やものとかかわりを通して興味関心の幅を広げ、感情や意思の表出と人やものに主体的にかかわる意欲の伸長を図る。	ア 生徒自らの主体性や意思の表出を図るため、人やものとかかわる時間を十分に設け、教材教具の工夫、ICTの活用を図る。	2-①②	B	○本年度はうんどうの授業を一斉に行うことができた。他学年と直接交流することができ、生徒同士がお互いの存在や良さに気づいたりすることができた。 ○個に応じたアプリを模索したり使用したりすることを通して、その使用頻度が高まり、授業の中で積極的に取り入れることができた。 ●交流の事前学習の時間を十分に確保することが難しかった。 ◇授業計画の段階で、行事と関連付けた計画をする。	
			イ 感染対策を取りながら、授業の内容によって学習集団を工夫し、いろいろな友だちや教師との関わりを図る。	1-①	B		
			ウ 交流及び共同学習を計画的に行い、時間割等の変化に対しても、安心して取り組めるように生徒の実態に応じて適切な配慮、支援に努める。	3-①	C		
	(3)	感覚機能や運動機能を高め、A DLの維持・向上を図る。	ア マッサージやストレッチ、運動等を毎日継続して行い、身体機能の維持・向上に努める。	2-③	B	○外部専門家との相談を通して、個別の目標に合ったより有効な手立てを講じながら、マッサージやストレッチ等に取り組むことができた。今後も継続して、外部専門家を活用し、質の向上を図ることが望ましい。 ○授業の中で音、光、感触等、様々なアプローチから五感に働きかけることができた。	
			イ 感覚や身体に働きかけるように、五感を刺激する活動や運動、音楽的な活動などを取り入れる。	2-③	B		